

SSH通信

スーパーサイエンスハイスクール
岩手県立水沢高等学校
第3号 令和2年9月29日 発行

フィールドワーク研修

令和2年9月24日(木)～25日(金)

フィールドワーク研修は、2011年3月11日に発災した東日本大震災について学ぶことを目的に、被災地を実際に訪ねて、当時の様子を深く理解することを目的に実施してきました。去年は、陸前高田市にある、東日本大震災・津波伝承館と宮城県気仙沼市の津波伝承館を訪問しました。今年度は、東日本大震災によって起こった福島第一原子力発電所の事故について学ぶことを目的に、9月20日に開館したばかりの東日本大震災・原子力災害伝承館(福島県双葉町)、東京電力廃炉資料館(福島県富岡町)、東京電力福島第一原子力発電所(福島県大熊町)の3カ所を訪問しました。

今回の研修を企画した際には、廃炉資料館と福島第一原子力発電所の2カ所を訪問する計画でしたが、9月に原子力災害伝承館が開館することを知り、急遽、訪問先に組み入れました。

『東日本大震災・原子力災害伝承館』

この施設は、東日本大震災および原子力災害の記録と記憶を国や世代を超えて伝えつつ、復興に向けて力強く進む福島県の姿と国内外からの支援に対する感謝の思いを発信するために造られた施設で、9月20日に開館しました。

伝承館に入館すると7面のスクリーンが設置されているシアタールームに案内され、展示館の概要を説明する映像を見ます。その後、展示室へと移動します。展示室は、「災害の始まり」、「原子力発電所事故直後の対応」、「県民の想い」、「長期化する原子力災害の影響」、「復興への挑戦」という5つのテーマに分けられています。

1時間ほどで展示コーナーを見学した後、語り部の渡辺好さんから、当時の様子を聴かせていただきました。渡辺さんは、当時、福島第一原発がある大熊町の隣にある富岡町に住んでいましたが、原子力発電所事故の直後に町民全員が避難することになり、隣接する川内村に避難しました。しかし、川内村も全員避難となり、郡山市にさらに避難しました。後で、伺ったところ、震災から今日までの9年間に12回の引っ越しをしたとのことでした。しかし、12回という回数は、少ない方だとも話されていました。また、避難した多くの福島県民が、避難先で「放射能が移るから近づくな」と言われたなどのつらい思いを経験したことなどもお話いただきました。

現在、富岡町に実際に住んでいる人は震災前の人口の約1割であり、震災は過去のものではなく、現在進行形の問題であると改めて認識することができました。



原子力災害伝承館の全景



語り部の渡辺好さん

『廃炉資料館』

この施設は、かつて東京電力が原子力事業をPRすることを目的として建設したエネルギー館でした。震災後は、廃炉資料館と名称を変更し、原子力事故の事実と廃炉事業の現状等を広報する場として使用されています。

展示は大きく2つのゾーンに分けられていて、一つは、原子力事故を振り返るゾーン、もう一つは、廃炉事業の現状を伝えるゾーンになっています。原子力事故を振り返るゾーンでは、事故直後の中央制御室内の様子や、事故直後の再現映像、全交流電源喪失から水素爆発に至るまでの時系列での変化の様子などを見ることができました。廃炉事業の現状を伝えるゾーンでは、実際に原子炉内に投入されたロボット、防護服や防護マスクなどを見ることができました。



原寸大の原子炉格納容器内をCGで再現し、ロボットで探査する様子

『福島第一原子力発電所』

前日見学した廃炉資料館で、東京電力のバスに乗り換え、福島第一原子力発電所へと向かいました。約30分の移動は、ほとんどが帰還困難区域で、道路沿いの家屋の入り口は鉄製のフェンスで封鎖されていて、人が立ち入ることができないようになっていました。そのため、家屋は震災当時のままの状態になっていて、自動車販売店の大きなガラスも割れたままの状態になっていました。

発電所に到着後、協力企業棟の会議室で現在の状況について説明を受け、一人ずつ線量計を受け取り、専用ゲートから放射線管理区域へ入りました。

建物から外へ出て、視察用の別のバスに乗り、敷地内へと入って行きました。敷地内には、汚染水の貯蔵タンクが所狭しと並んでいて、その大きさと数の多さに驚かされました。次に、目に入ってきたのは、1号機から4号機の原子炉建屋です。水素爆発を起こした1号機は、上部に壁がなく骨組みがむき出しとなっていました。上部には、水素爆発で発生した瓦礫があり、大型クレーンで撤去している途中でした。他の建屋もそれぞれの状況に応じて作業が行われていました。敷地内には、汚染水を処理するための施設や放射性廃棄物を保管するための施設など数多くの施設がありました。ニュースなどで見ていたものは、ほんの一部であるということがわかりました。また、1日に構内で働いている作業員の人数は約4000人であるということもわかりました。構内は撮影禁止のため、写真を撮ることができなかったことがとても残念でした。



家屋の入り口を封鎖するフェンス



ガラスが割れた自動車販売店

最近、福島第一原子力発電所に関する報道が少なくなり、現在の状況がわかりにくくなっています。今回の研修で、同じ被災地といっても岩手と福島では状況が大きく違っているということが認識できました。研修に参加した生徒たちの感想には、多くの事を初めて知った驚きが書かれていました。今後も、東日本大震災を学ぶ活動を継続していきたいと思えます。